鹿児島市立桜丘中学校
令和3年9月22日

第6号

いかに努力するか　いかに戦うか

校長　上久保大介

近代オリンピックの創立者である**ピエール・ド・クーベルタン**は、各国のオリンピック関係者を招いた晩餐会で**「オリンピックは勝つことではなく、参加することにこそ意義がある」**と演説したそうです。実はこの言葉は彼のオリジナルではなく、他の人の言葉の引用だったそうですが、この演説が彼の言葉として世界に広まってしまったのだそうです。また、彼は**「自己を知る、自己を律する、自己に打ち克つ、これこそがアスリートの義務であり、最も大切なことである。」**と続けました。これこそが彼の言葉であり、**近代オリンピックの真髄**を述べているのです。私たちは多くのアスリートが金メダルを目標に努力し、全ての力を出して競う姿に感動します。メダルを取った取らないで一喜一憂するのもまた、事実です。しかし、**本当に大切なのは、目標に向かって努力することであり、努力しながら自己を磨き続けること**なのかもしれません。

近代オリンピックのもととなった**古代オリンピック**でも、戦争を一時的に停止し、正々堂々と競い合っていたらしく、そこでは**「美にして善なること」**つまり身体的な美しさだけでなく心も道徳的であることを重んじ、互いを尊重しあっていたそうです。時は流れ、近代オリンピックとして復興したのも、絶えることのない戦争や互いの尊厳を踏みにじるなどの「いさかい」の中で「平和の祭典」を求める声が上がっての、自然な流れだったのでしょう。**オリンピックには人として生きることの大切さや願いが込められている**のかもしれませんね。

クーベルタンの演説の続きを紹介します。

人生において大切なことは、成功することではなく、努力することである。　肝要なのは、勝利者になったことではなく、健気（けなげ）に戦ったということである。　根本的なことは、いかに戦ったかということである。

今も昔も、**心に刺さる言葉には重みがあり、真剣な姿には人々の心を震わせる力があります。**生徒たちにはその言葉をしっかりと受け止め、まっすぐに実践できるような人になってほしいと願っています。

「まん延防止重点措置」の延長により、**体育大会は学年体育大会に変更**せざるを得なくなりました。体育の授業で行うことになりましたので、楽しみにしていた保護者の皆様にも、**このような形での活動になり、とても遺憾に思います。**それでも、この文章を書いているまさしく今、生徒たちは校庭で学年練習に励んでいます。おやっ？　**ひときわ大きな歓声**が上がりました。どうやら全員リレーが始まったようです。**仲間を応援する姿に、精一杯走る姿に生命の躍動感を覚えます。**全体で行う体育大会はなくなりましたが、学年体育大会の本番に向け、**「いかに努力するか」「いかに戦うか」**が、これから問われるところです。